

長野県松本蟻ヶ崎高等学校 2020年度自己評価表

I 教育目標

| 教育方針 | 学校教育目標 |
|---|---|
| 1 日本国憲法と教育基本法に則り、自由・平等・博愛と自主・自立・自存の精神を涵養する。 2 より文化的で、暮らし易い社会の形成者として、希望と未来のある世界の構築に実践的に参画することの出来る、個性豊かな人材を育成する。 | 1 日々の授業を重視しながら、クラブ活動との協調的展開を志向する。 2 生徒の多様な進路希望を実現すべく、創意工夫と相互協力を旨とした教育を実践する。 3 生徒の自主活動を効果的に支援し、偏りの無い人間像の確立に努める。 4 いじめや体罰のない、生徒が安心して学校生活をおくることができる安全な学校づくりをする。 |
| | 今年度の重点目標 |
| | 1 文武両道を目指した時間の有効活用を図る 2 多様な希望に沿った進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む 3 主体的な挨拶と清掃に取り組む 4 安心安全な学校を目指す |

II 今年度重点目標に対する「評価項目」

【1 文武両道を目指した時間の有効活用を図る】

- (1)生徒が自ら具体的な学習目標を持つことができるよう、教科指導と進路指導を行う。
- (2)部活動や生徒会活動に積極的に参加しながらも、家庭学習の時間を確保できるよう環境づくりを進める。

【2 多様な希望に沿った進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む】

- (1)キャリア教育の観点から、生徒の主体性を喚起し、協調的・発展的助言をする。
- (2)外部の講師による講演会等を実施し、生徒の進路意欲を喚起する。

【3 主体的な挨拶と清掃に取り組む】

- (1)自然な挨拶が出来る校風をめざし、良好な人間関係を構築する。
- (2)全員が主体的に清掃を行えるよう徹底する。

【4 安心安全な学校を目指す】

- (1)安心、安全の学校づくりをするため、懇談会等を利用して状況把握をする。
- (2)いじめ・体罰の未然防止のため、常に生徒・職員の意識の啓発に努める。

【係】 評価は A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の 4 段階

| | 評価項目(重点活動) | 評価の観点(到達目標) | 評価 | 成果と今後の課題・改善策 |
|-----|---|--|----|--|
| 教務 | 1)生徒が主体となって取り組める学校生活を実現するために、授業や指導の改善をすすめ、行事の内容や実施時期を再考する。また、会議を減らし生徒の指導のための時間を確保しつつ、教員の働き方の見直しをする。 | 1)授業時間の確保と、行事内容の再考を進めつつ、新学習指導要領を見越した体制作りができたか。また、平日の放課後の時間を生徒や授業のために有効利用し、教員も超過勤務の是正が図れたか。 | B | 1)今年度はコロナの影響により、年間行事予定表を大幅に変更せざるを得なかった。やむを得ず実施できなかった行事分を授業に振替え、夏季休業も短縮することにより、年度当初の約 95%の授業時数を確保できた。また休校中のオンライン授業により 100%近く回復ができた。会議の在り方については今後も引き続き見直していきたい。超過勤務の是正については改善がなされなかった。 |
| | 2)緊急事態に対する適切な対応をする。災害防止対策を万全に行う。 | 2)緊急事態に適切に対応できたか。防災対策は徹底されたか。 | B | 2)緊急事態に対して最善は尽くしたが、万全でない部分もあった。検証し今後の対策に生かしたい。 |
| | | | | |
| 情報 | 1)成績処理や生徒情報の取り扱いをより慎重に行う。HP 等で校内の情報を積極的に発信する。 | 1)データの流失や紛失、出入力の誤りなどがなく、全職員の意識を高めることができたか。 | B | 1)全職員の意識を高める具体的な行動をとるべきであった。 |
| | 2)Wi-Fi 環境の整備 | 2)必要とされる教室に Wi-Fi 環境が整備できたか。 | A | 2)研究室への設置が課題である。 |
| 時間割 | 1)適正な選択科目および講座配置の工夫 | 1)本校教育課程、入試科目、生徒の選択科目希望、教員定数などの総合的観点から、開講講座、時間割が適正であったか。(教育課程移行期の工夫と教室配置の工夫) | B | 開講講座に関しては、教育課程・学年主導になり、その意を受けて時間割を作成することになる。各先生方の授業行時間の配置はできるだけ均等になるよう心がけた。 |
| | 2)バランスのとれた考査時間割の作成 | 2)年間考査時間割計画を作成し、バランスのとれた科目配置、監督配置ができたか。 | A | 概ね計画通り。 |
| | 3)3 年前期特別編成授業の作成 | 3)学習係との連携で、効果的かつ生徒にとって有効な特編授業が編成できたか。 | C | 教科の時間配分は概ね良好。時間割の提示が遅いとの意見があり、提示の時期を早める必要はあるかもしれない。 |

| | | | | |
|------|--|--|--------|---|
| 渉外 | 1)PTA の立場からも「開かれた学校づくりをすすめ、日常の活動の活性化を図る。 | 1)①会報発行など全会員に PTA の情報発信ができたか。 ②地区 PTA を全地区で開催し、保護者の積極的な参加と学校に対 する要望を聞くことができたか。 | B | 今年度はPTA総会、評議員会、学年PTAを 書面開催で行った。また、地区PTA の開催ができなかったため、それぞ れの地区担当の先生方に次年度の地 区役員選出をお願いした。おかげさ まで、ほとんどの地区の役員が決定 した。 |
| | 2)同窓会と学校が連携し活動をおこなう。 | 2)①諸活動の中で同窓会と学校の 連携は進んだか。 ②生徒会、PTA、学校、同窓会 でおこなう四者協議会での連携が 進んだか。 | A | 次年度の蟻高創立 120 周年記念事業に 向けての活動が始まった。さらに同 窓会との連携を強めていきたい。 |
| 保健安全 | 保健 1)心身の健康管理を適切に行う。 | 1)生徒健康状況や治療状況を把握し 治療勧奨や適切な健康管理・健康 相談ができたか。 「心の健康問題」においては担任、 生活指導、支援委員会等との連携 が適切にとれたか。 | B | 心の問題同様に身体的に配慮を必要 とする生徒にも配慮・支援していく 事が今後も必要。 今後も支援の必要な生徒が増加多 様化する可能性があるため外部との 連携も図っていききたい。 |
| | 2)健康教育の充実 3)環境衛生活動の充実 | 2)保健だよりや保健委員会活動等 などを通じて、充実した健康教育 を行う事ができたか。 3)環境衛生の定期日常点検が適切 に行われたか。 検査、点検の結果、改善されたか。 | B B | 生徒会・保健委員会と連携して、保 健だより等で健康教育を行った。 1年生への性教育講座等も今後継続 したい。 定期点検・検査等は適切に行われ た。施設の老朽化が一層進み早期に 改善の必要性のあるものについては、 庶務で対応した。しかし、今後対策 が必要な箇所は増加すると思われる。 |
| 清美 | 1)校内外の清掃を徹底することで、 学びやすい環境を整え、生徒の自 主性も伸ばす。 | 1)清美委員会の自主的活動を活性 化させるとともに、全校生徒によ る校舎内外の美化と学習環境の 整備につとめることができたか。 「全員清掃」がきちんと実施でき たか。 | B | ○休校や消毒作業など、予想を超えた 仕事内容となり、昨年までの方法が 参考にできず大きく変えざるを得な いことが多かった。前半は生徒主体 での活動ができないことが多かった が、後半はよくやってくれた。 |
| | 2)環境や資源に対する意識を向上 させ、ゴミを分別する習慣を生徒 につけさせたり、ストックヤードの 管理を行うことによって、生徒の 自主性を育てる。 | 2)日常の清掃活動、ゴミの分別、 ストックヤードの管理など、委員 会を中心に行うことができたか。 また、ゴミの減少のために工夫 ができたか。 | | ○先生方の清掃・消毒の負担が多く 大変だったと思います。お疲れさ までした。ご協力ありがとうございました。 ○感染の拡大状況をみながら、来年 以降の清掃方法(消毒方法)を検討 したい。 ○衛生観念は個人差があり、危機感 にも差があったため、消毒の徹底 など困難なこともあった。来年は 同じ意識で、取り組めるといいと思 った。 ○係としては精いっぱいやった。 |

| | | | | | |
|------|------------------|--|--|---------------------|--|
| | | 園芸 1)中庭花壇の整理整頓・管理 2)式典用の鉢花管理・装飾 3)中庭花壇の除草 | 1)園芸委員会の年間活動が計画的で充実した内容になるよう組織的に行うことができたか。 2)卒業式・入学式における式典用鉢花の栽培管理、式場の装飾を自主的に行うことができたか。 3)清掃分担のクラスと協力して除草作業を計画的に行うことができたか。 | C A B | ・今年度はコロナの影響で休業があったため不十分であった。 ・今年度卒業式で使用した鉢花を入学式まで管理してみたが難しい。 ・草が伸びすぎたため生徒だけでは除草が間に合わず、保護者がたつたてくれた。 |
| 生徒指導 | 生活指導 | 生徒が日々安心して安全に、いじめなどのない学校生活を送れるようにするための支援活動 | 校内の見回り、生徒への交通安全、スマートホン使用マナー、貴重品管理などの注意喚起や各種講演会等の実施を通して、生徒の生活全般に安全管理が適切に図られたか。 | A | 1) 昨年度に比べて交通事故(自転車事故含む)、が約3倍強と増加し、盗難被害は減少したが、引き続き注意喚起をしていきたい。 スマホ使用について学校全体の問題として取り組みたい |
| | コーディネーター 特別支援 | 学校生活において支援を必要とする生徒への適切な対応 | 生徒支援委員会と連携し、全教職員と情報共有を図り、生徒支援を共通の課題として取り組むことができたか。 | A | 早い対応ができた。今後も職員全員での情報共有はリアルタイムで行いたい。 |
| | 生徒会 | 1)学校行事を通じて人間力を高め、人との絆や信頼を形成し、生きる力や自己肯定感を育てる。 2)地域社会や環境活動への広がりを持った取り組みを行う。 | 1)各行事で自分の役割を認識し、生徒会やホームルーム活動に貢献できたと感じる事が出来たか。 2)自分たちに来る、ボランティア活動・地域活動・環境問題への取り組みができたか。 | A B | コロナ下で行事の中止や実施方法の変更が求められる中、逆に新たなものが創造され、生徒たちの自主自立の力が養われた。 コロナ下で活動が制限され地域への発信・連携がとりにくかったが、ぎんが祭等を通じて、日頃から地域の方々に学校が支えられていることを改めて感じ取ることができた。 |

| | | | | |
|------|------|--|--|---|
| 進路指導 | 進路 | <p>1)キャリア教育の観点による、3年間を見通した体系的かつ効果的な進路指導を行う。</p> <p>2)必要な時期に、必要な情報・資料を、効果的に提供する。</p> | <p>1)</p> <p>①時機に応じた効果的な講演会・学年集会等を計画し、実施できたか。</p> <p>②全国的な進路状況や様々なデータを通して、個々に応じた進路指導方法を研究・実践できたか。</p> <p>③各学年で複数回の進路検討会をもち、生徒に適切なアドバイスができたか。</p> <p>2)</p> <p>①学年毎に進路・学年通信を発行する等、的確な情報提供ができたか。</p> <p>②常に生徒の進路意識を喚起し、学校全体が学習に向かう雰囲気作りに努めることができたか。</p> <p>③ 必要な資料を、生徒が利用しやすく整理・提示することができたか。</p> | <p>B</p> <p>コロナ禍の中、可能な範囲での開催となった。リモートを利用するなど工夫をしたが、環境面でも厳しい面があった。</p> <p>共通テスト元年で、初めてのことが多かったが大きなトラブルはなく、乗り切ることができた。</p> <p>3年生を中心とした進路検討会となった。来年度は1, 2年生でも実施したい。</p> <p>A</p> <p>各学年担当が精力的に学年進路通信を発行し、生徒への支援に役立てた。職員会や学年会において、大学進学情報や入試の変更点など、職員全体に理解してもらえるような情報提供を行った。</p> <p>各学校からの資料、赤本等を随時整理し、生徒の利用しやすい環境をつくることができた。</p> |
| | 学習 | <p>1)生徒の学習への意識を高め、基礎学力の定着と知的好奇心を涵養する。</p> <p>2)学力向上や進路実現のため、補習授業および特別編成授業などの企画運営をおこなう。</p> | <p>1)授業・補習・家庭学習を連携させるための指導や助言ができたか。</p> <p>2)授業や模試の復習など生徒の実態に合わせた補習授業および特別編成授業など適切な企画運営ができたか。</p> | <p>B</p> <p>1)どのように知的好奇心を涵養するかが課題である。生徒が主体的に学ぶ環境を整えたい。</p> <p>A</p> <p>2)一斉休校もあった中ではあるが、他の係や教科と連携して、ほぼ計画通りの補習授業および特別編成授業を実施できた。</p> |
| | 探究推進 | <p>生徒自身が自ら課題を持ち、フィールドワークやICT機器を使いながら情報を収集し、自らの力で解決していく力を養うための活動を提案していく。</p> | <p>自主的かつ自らの課題に応じた実践的なフィールドワーク、ICT機器を活用して行えたか。</p> <p>生徒自身が課題を見つけ解決していく能力が身についたか。</p> <p>自らの学びや考えを、他者に対して伝える力がついたか。</p> | <p>B</p> <p>自らの課題や問いに対して、ICT機器を活用して解決方法を考え、プレゼンテーションすることができた。ただ、コロナの影響でフィールドワークの機会が持てなかった。</p> <p>校外へ出て地域とつながりたい。</p> |

| | | | | |
|----|--|---|---------------------|--|
| 図書 | 1)質の高い読書人を育てる。 2)授業との連携をはかる。 3)生徒図書委員会活動の活性化を進める。 | 1)①適切な情報発信・資料更新ができたか。 ②生徒・教職員の読書環境を整え、向上させることができたか。 2)各学年・教科・係等と連携を図りながら、授業や特別活動や進路に役立つ資料提供ができたか。 3)図書委員会活動が活発に行われたか。 | A A A | 1) ①「新着情報」「司書室だより」を発行し、読書欲を促進できた。古い図書を除籍し、使いやすくなった。②生徒・職員のリクエストには可能な限り対応できた。 2)進路・学年の要望より継続して「小論文・進路選択」に役立つリスト作成・配布できた。授業利用で事前準備・資料提供・支援ができた。 3)イベント企画運営や「図書館だより」発行など活発に行われた。十分な支援体制を心がけ対応ができた。 |
| | 1)芸術鑑賞の円滑な運営を図る。 2)合唱コンクールの円滑な運営と内容の充実を図る。 3)視聴覚教室の整備と有効活用を図る。 | 1)芸術鑑賞が円滑に運営できたか。また、生徒の心に残る鑑賞会となったか。 2)生徒会鑑賞委員会の活動を支援し、生徒が主体的に合唱コンクールの内容の向上に務めることができたか。会場への移動に配慮し、運営が円滑に行われたか。 3)授業や生徒会、クラブ活動等において視聴覚教室が有効に活用されたか。また、自習室としての管理が十分に行えたか。 | A B A | 鑑賞委員が主体的に動くことができ円滑に運営できた。アンケートで評価の高い鑑賞会になった。 鑑賞委員が主体となり運営はスムーズに行えたが、進行で改善できる点(時間削減)を実行して更なるゆとりを持たせたい。準備期間にゆとりを持たせることがうまくできなかったのも、新年度の始まりから、特に初参加の1年生を重点的に準備の支援を行いたい。 掃除機を導入し、清掃活動はより入念に行えた。3年生のための自習室としての利用など年間通して有効活用された。 |

【委員会】 評価は A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

| | 評価項目(重点活動) | 評価の観点(到達目標) | 評価 | 成果と今後の課題・改善策 |
|------|------------------------------------|-------------------------------------|----|---|
| 教育課程 | 3つの方針、グランドデザインを踏まえ、教育課程の精査、編成に努める。 | 本校の教育課題および教育課程について議論を充分に行なうことができたか。 | A | 教育課程の精査、編成について議論を重ねることができた。今後、運用していく中で、検証をしていきたい。 |

| | | | | |
|---|--|---|----------------------------|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">予算施設</p> | <p>1)2020 年度備品費・遠征費の希望調査を行い、適切に調整し対処する。</p> <p>2)施設面の運用について問題となっている事項を検討し、具体的な解決をはかる。</p> | <p>1)各教科等の意見を取り入れながら適切に対応できたか。</p> <p>2)施設の有効運用、配置を提案し、具体的に解決をする。</p> | <p>A</p> <p>A</p> | <p>・備品の購入希望を取り、検討の上対処できた。遠征費は年度後半の執行残額を見ながら調整したい。</p> <p>・引き続き関係部署と調整し、対処したい。</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校衛生</p> | <p>働きやすい安全な職場環境や健康の保持増進を図る。</p> | <p>1)委員会を定期的開催し問題点を共有できたか。</p> <p>2)職員健康診断（人間ドック）の全員実施ができたか。</p> <p>3)校内の危険個所の点検及び改善ができたか。</p> | <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> | <p>定期的な開催ができた。</p> <p>健康診断対象者は全員実施。</p> <p>人間ドック受診対象者には受診勧奨を行った</p> <p>校内の職場点検を行い併せて職員の意見を聞き、可能な範囲で危険箇所の修繕を行なった。</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">生徒支援・いじめ防止</p> | <p>1)いじめの未然防止のため、いじめ防止基本方針を徹底し、生徒指導・学級活動・特別活動等を通じて、いじめの起きにくい集団作りを行う。</p> <p>2)相談体制の充実やアンケート調査などにより、いじめの早期発見に努める。</p> <p>3)いじめの対応には組織的・継続的に当たり、早期解決と再発防止に万全を期す。</p> | <p>1)諸活動を通じて、自己肯定感と他者理解に裏付けられた集団作りができたか。</p> <p>2)いじめの早期発見と、解決、再発防止が連携をもってできたか。</p> | <p>B</p> <p>B</p> | <p>1 学年でアセスを実施し、クラスの状況分析を行った。</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">銀河セミナー推進</p> | <p>1)計画する講座に生徒が意欲的に参加し、学力向上・学習成果が実感できるような工夫に努める。</p> <p>2)生徒のキャリアへの意識や人権への意識の向上を促す教養講座を企画・開催する。</p> | <p>1)生徒の自己啓発を引き出し、計画的な参加による学力の向上に繋げることができたか。また、3年生においては、夏期補習及び朝・放課後補習等と関連づけ、受験や進路先での学力をつける一助になったか。</p> <p>2)生徒の社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育てることができたか。</p> | <p>B</p> <p>B</p> | <p>講座は概ね計画通りに実施できた。今後も実施内容の検証を重ね、実行していきたい。</p> <p>感染症対策のため、制限のある中での実施となったが、無事開催することが出来た。</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">コンプライアンス</p> | <p>1)学校内、職場内の非違行為およびさまざまなハラスメントを防止する。</p> | <p>1)非違行為やセクハラ・パワハラ等のない、毎日気持ちよく生活できる学校・職場であったか。</p> | <p>B</p> | <p>1)生徒への指導のありかたに対する保護者からの意見や職員の交通事故が数件あったが、いずれも今後に生かせるものとする。</p> <p>2)体罰・パワハラ等のチェックシートの作成と活用。</p> |

| | | | | |
|--------|--|---|--------|--|
| 危機管理対応 | 生徒が安心して学び、教職員が安心して教育活動ができるよう、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。 | 1)生徒や教職員が安心安全に生活を送ることができたか。 2)危険の予防、迅速な対応、再発の防止に取り組めたか。 | B | 1) 臨時休業などもあったが、基本的には生徒は落ち着いて学校生活を送っていた。 2) 感染症対応時の危機管理委員会は迅速に開催できた。また学校安全衛生委員会と首尾よく連携できた。 |
| 学校保健 | 生徒が自ら健康を守るための行動選択をする。 | 1)健康診断で健康状況を把握できたか。 2)保健委員会では三役を中心に行事等における緊急時の対応ができたか。 | B B | 感染症予防対策に力を入れた1年間であった。引き続き対策を心がけていきたい。 行事等では、大きな事故がなくて良かった。 |
| 学校企画 | 高大接続改革を見据えた年間行事計画を、各係と連携しながら作成し提言する。 | 年間授業日数が昨年度を下回らないよう、授業時間数の確保をしつつ、授業・行事ともに生徒が主体的に取り組めるような、魅力ある年間行事計画の提言ができたか。 | B | コロナの影響により、授業時数の確保を最優先とした。中止となった行事が多い中、生徒が主体的に取り組める行事を一部実現できたことが、次年度以降に生かされるよう引き続き努力したい。 |

【学年】 評価は A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

| | 評価項目(重点活動) | 評価の観点(到達目標) | 評価 | 成果と今後の課題・改善策 |
|-------------|--|--|----|---|
| 1 学 年 | 1) 基本的な生活習慣を確立し、充実した学校生活を主体的に送ることができるよう指導する。 | 1) 心身の健康に留意しながら、遅刻や欠席をせず、主体的に授業や生徒会活動、クラブ活動、清掃、挨拶等に取り組むための支援ができたか。 | A | 1) 日常の生徒との意思疎通の継続、必要に応じた保護者との連絡等をより一層充実していくことが重要である。 |
| | 2) 生徒の進路保障のために、基礎学力をつけていくための支援を行う。 | 2) 通常の授業やぎんがセミナー、フォローアップ講座、学習強化週間、各種検定などを通して、生徒個々に学習の支援をすることができたか。 | A | 2) 定期考査の前後の適切な時期にフォローアップ補習を行い、一定の効果を上げることができた。 |
| | 3) キャリア教育や人権教育を通して、「人間を大切にする」気持ちを育てる。 | 3) 学校生活を通して、思考力・リーダーシップ・協調性・行動力などを育てるとともに、将来の職業観を養い、人権感覚を高める指導ができたか。 | B | 3) 生徒会の行事等、オンラインの開催が多くなったが、生徒はよく順応して主体的に参加できた。また、生徒会本会の役員への積極的な立候補も多くあった。 |
| | 4) 自ら考え、自ら行動する力を育成する。 | 4) 探究学習を通して、他者と協働しながら自ら課題を見つけ、それを解決していくための指導、支援ができたか。 | A | 4) 係の先生を中心に、系統立てて年間を通して計画をしていただき、生徒が学習の主体となって活動できて良かった。GoogleClassroomをフル活用し、各種提案や提出がスムーズに行われて作業が効率化し、担任の業務削減にもつながった。 |

| | | | |
|-------------|---|--|---|
| 2 学 年 | <p>1) 基本的な生活習慣を確立し、充実した学校生活を主体的に送ることができるよう指導する。</p> <p>2) 生徒の進路保障のために、基礎学力をつけていくための支援を行う。</p> <p>3) キャリア教育や人権教育を通して、「人間を大切にする」気持ちを育てる。</p> <p>4) 自ら考え、自ら行動する力を育成する。</p> | <p>1) 心身の健康に留意しながら、遅刻や欠席をせず、主体的に授業や生徒会活動、クラブ活動、清掃、挨拶等に取り組むための支援ができたか。</p> <p>2) 通常の授業やぎんがセミナー、フォローアップ講座、各種検定などを通して、生徒個々に学習の支援をすることができたか。</p> <p style="padding-left: 2em;">また、今後の取り組みに反省を生かせるように指導・助言ができたか。</p> <p>3) 学校生活を通して、思考力・リーダーシップ・協調性・行動力などを育てるとともに、将来の職業観を養い、進路目標を考える指導・助言ができたか。</p> <p>4) 探究活動、探究学習を通して、他者と協働しながら自ら課題を見つけ、それを解決していくための指導、支援ができたか。</p> | <p>B</p> <p>・ 保護者や関係機関との連絡・連携を密にし、また、生徒との面談等を通して生徒の変化を早期に把握し指導することは概ねできた。今後も連携をとりながら指導・支援をしていきたい。</p> <p>・ ほとんどの生徒が部活動に加入し、日々研鑽を積んでいる。勉強との両立に必死に取り組んでおり、今後も指導・支援を継続していきたい。</p> <p>・ 試験前に質問形式のフォローアップ補習を実施した。参加者は決して多くなかったが、参加した生徒は意欲的であった。毎回の実施を継続していきたい。また、銀河セミナーは昨年度に比べると参加者は減少した。ただ、意欲を持って取り組んでいる者も多く、この意欲を大事にして、今後も支援をしていきたい。</p> <p>・ 6月の大学・企業見学が中止になったが、進路講演会や大学模擬講義をなどは進路を考える上での一助となった。</p> <p>・ 探究の時間においては昨年度からの課題研究について中間発表会が系統立てて実施でき、学年発表会は生徒が主体となって運営ができて成果があった。研修旅行に探究のテーマを関連づけ、事前学習、事後学習をできたことはよかった。今後、研究をまとめるに当たって、適切な助言、支援を行っていきたい。</p> <p>B</p> <p>B</p> |
|-------------|---|--|---|

| | | | | |
|----|--|--|---|--|
| 3年 | <p>1)生徒の進路実現のために、学びやすい環境を整え、基礎学力の向上を図る。</p> <p>2)基本的な生活習慣の定着をさらに進めるとともに、様々な面で支援を必要とする生徒に個別に対応する。</p> <p>3)学習・課外活動両面で自主性・主体性の確立をめざし、学習と特別活動がバランスよく両立できるようにアドバイスを行う。</p> | <p>1)学年職員の中で有機的な連携を保ちつつ、生徒の進路実現に向けた学習や進路の指導ができたか。</p> <p>2)生徒が抱えている課題に対して、柔軟に対応し、個別指導を含む効果的な指導・支援ができたか。</p> <p>3)生徒の自主性・主体性の確立を重視しつつ、学習と特別活動の両立に留意した支援ができたか。</p> | B | <p>・2か月の休校に及んだが、補習・模試等、入試への影響を最小限にとどめられたと思われる。</p> <p>・文化祭はコロナ禍で日程を繰り下げてリモート開催となったが、素晴らしい出来で、今後に一石を投じるものとなったと思われる。</p> |
|----|--|--|---|--|

【教科】 評価は A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の 4 段階

| | 評価項目(重点活動) | 評価の観点(到達目標) | 評価 | 成果と今後の課題・改善策 |
|-------|---|--|---------------------|--|
| 国語 | 1)主体的な学習態度の育成。 2)的確な学力診断に基づいた国語指導スキルの向上。 | 1) 生徒による家庭学習(特に授業の予習と復習)は、質量両面で改善できたか。 2)①シラバスの内容を検討し、適切化をはかり、効果的に運用できたか。 ②定期考査及び模擬試験の結果を分析し授業の改善につなげることができたか。 | B B | 1) 課題帳等の提出状況は比較的良いが、取り組みに差がある。予習も古典など、本文を写すだけの生徒もいれば、現代語訳等よく調べている生徒もいる。特に質の改善に課題が残る。(その他 休校の影響か、3年生の補習への参加が多く、意欲的に取り組んでいた。) 2) ①コロナ休校による変更を余儀なくされ計画通りに進まなかった。限られた時間の中で変更を重ねることに苦慮した。 ②学年間で折に触れ生徒の様子を情報交換することができた。今後は教科として、生徒の学力を分析したり、課題を共有したりする機会を増やしたい。 |
| 地歴・公民 | 1)授業、補習、特編を充実させるとともに、相互の関連にも留意して学力の向上を目指す。 2)個人研修の充実と、教員相互の研鑽を図り、教科指導の更なる充実を目指す。 | 1)学力向上に資する連関ができていたか。 2)教科内で有効な研修が実施できたか。 | A A | 例年と異なる日程を余儀なくされたが、夏季休業・2学期からの補習授業等、充実して行うことができた。 10年研と連携して、研究授業を開催し、相互の研修成果をあげることができた。 |
| 数学 | 1)基礎力・家庭学習の確立 2)応用力の養成 3)知的好奇心や思考力の養成 | 1) 小テストを活用し基礎力の定着を図り、家庭学習で自ら計画的に取り組む姿勢を育てることができたか。 2)問題集・参考書等の発展的問題に積極的に取り組む姿勢を育て、さらに解力をつけさせることができたか。 問題集や課題への取り組みを指導することができたか。 3)問題の解決に向けて数学的な見方を養い、意欲的に取り組む姿勢を伸ばさせることができたか。 | A A A | 今年度は、コロナ禍の中、当初の計画通りに学習を進めることが難しい状況であった。その中で、家庭学習のための課題提示や、リモートによる授業の実践など、新しい試みを取り入れることで、家庭学習を促し基礎学力の定着を図ることができた。今後、リモートの活用方法など、様々な学習指導を模索していきたい。 新課程において、日常的な場面を想定し数学的な思考力や実践力が求められるようになってきている。そのため、授業展開や宿題などで応用力を求める演習や課題を多く取り入れることができ、生徒に自発的に実践・解決していこうとする姿勢を促進させた。 具体的な指示をすると取り組む生徒は多いが、積極的に取り組む姿勢を身につけることは今後も課題である。課題の量や内容も含め、自発的に取り組めるような方策を検討していきたい。 |

| | | | | |
|------|--|--|----------------------------|--|
| 理科 | <p>1)新教育課程の実施に向けて、より一層効果を発揮する理科教育課程を編成するために、各科目の内容についての研究をさらに進める。</p> <p>2) 授業内容の充実</p> | <p>1)物理・化学・生物・地学の4分野が有機的に関連した、バランスのよい、効果的かつ受験にも対応できる教育課程を検討・作成できたか。</p> <p>2)授業プリントや復習プリントの作成、小テストや演習・実験等の実施により、基礎学力を向上させ、大学受験にも対応するための授業が展開できたか。</p> | <p>B</p> <p>A</p> | <p>・今年度はコロナ休校により遅れがリカバーできないことが授業再開当初懸念されたが、休校中の課題内容の工夫、また授業プリントや授業実施方法の工夫(ICTの活用など)を通じて、3年生では教科書の目標範囲をほぼ例年通りに終わらせることができた(1・2年生についてはやや遅れぎみ)。また、遅れを取り戻すための過度な補習を行うこともなく(例年並みの補習時間で)対応できたので、現教育課程の組み立て方は適切なものであると実感できた。新教育課程も現教育課程とほぼ同じ時間数を確保することができたが、ただし新教育課程に対する共通テストの受験指定科目の状況によっては、再度教育課程の全体的な見直しをせまられる必要があることも想定しておかなければならない。</p> |
| 保健体育 | <p>1)自分の体力を客観的に捉え、補うべき体力を知ると共に、将来にわたって健康を保持増進できる知識と体力を養う。</p> <p>2)心身の健康や安全管理に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲の育成</p> | <p>1)</p> <p>①スポーツテストや日々の授業の中で自分の体力の要素を理解し、運動の楽しさを味わい、スポーツを身近に感じることができたか。</p> <p>②互いに協力してスポーツを実践していく中で、集団における自らの役割を自覚できたか。</p> <p>2)保健を学習する事により、現代社会における健康の問題点を知り、それを解決する方法を学習し、実践する意欲を育てることができたか。</p> | <p>B</p> <p>A</p> | <p>今年度は新型コロナの感染防止のためスポーツテストを中止した。そのため自分の体力を数値化できなかつた。来年度はなんとか実施したい。</p> <p>保健の授業では、各担当者がICTを活用して映像を見せたり、考える授業を試みた。</p> |
| 芸術 | <p>1)生徒が意欲的に取り組む授業の実践</p> <p>2)芸術文化に対する理解を深め、尊重する態度の育成</p> <p>3)生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。</p> | <p>1)生徒が、意欲的に取り組める題材設定、授業形態の工夫を行えたか。</p> <p>2)諸外国の芸術文化に加え、特に日本の芸術文化に対して理解を深める鑑賞活動を取り入れることができたか。</p> <p>3)表現・鑑賞にかかわる幅広い活動を通して、基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養うことができたか。</p> | <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> | <p>1) いずれの題材においても、生徒の意欲を刺激し、主体的な活動が見られた。</p> <p>2) 鑑賞を通し、日本の芸術文化に対して理解を深めることが出来た。</p> <p>3) 基礎的な能力を養い、発展的な表現につなげることが出来た。</p> |

| | | | | |
|--|--|---|-------------------|--|
| <p style="text-align: center;">外国語</p> | <p>1)生徒が自ら具体的な学習目標を持ち自主的に英語学習に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>2)希望進路実現のために必要となる生徒の英語力を伸ばす。</p> | <p>1)基礎的な事項の定着と言語活動のバックアップをする中で、生徒一人一人に英語学習に対する目標を意識させ、その達成に努力するように指導・助言を行うことができたか。</p> <p>2)共通テストの内容や問題傾向を研究するとともに、他の入試問題の研究、模擬試験等の結果の分析も行い、それぞれに適切な指導・助言を行うことができたか。また、英語検定の受験促進とその受験生に対するバックアップがしっかりできたか。</p> | <p>B</p> <p>B</p> | <p>・個々の生徒に対して、基礎力の定着やそれぞれの進路希望に合わせた英語学習活動に対する指導・助言をこれからも続けていきたい。</p> <p>・電子黒板を使った授業やオンライン授業、またそれらを通しての生徒への指導の仕方について国や県の動きに注目しながら研究を続けていきたい。</p> <p>・日々の授業実践の中で、共通テストに対応できる授業の在り方(例えばリスニング問題への対応等)を探っていきたい。</p> |
| <p style="text-align: center;">家庭</p> | <p>1)大きく変容していく社会の中で、未来をつくる人として、生活の充実・向上を図る能力と実践的な態度を育成する。</p> <p>2)個々の小論文・面接指導はもちろん、日常の学習の中で「シス・ソップ」の育成を図り、自分の意見を持ち表現する力を育成する。</p> | <p>1)生徒が主体的に取りくめるような授業内容・実習課題を設定することができたか。</p> <p>2)生徒の進路実現に向け、適切な学習指導・小論文・面接指導を行うことができたか。</p> | <p>A</p> <p>A</p> | <p>1)消費生活センターの職員を招き、成人年齢引き下げに向けて、消費者教育の充実を図ることができた。</p> <p>今年度は、コロナ感染予防の観点から、調理実習や保育園実習等、当初の計画通りに学習を進めることが難しかった。その中で、今できる学習内容を精選し授業を展開することができた。調理実習は、コロナ休業期間や長期休暇を利用し、家庭での実習レポートという形式で代替した。科目によっては、Google スライドなどを活用した調べ学習ができた。</p> <p>2)授業内でも、新聞記事を取り上げる記述課題を設けるなどの取り組みができ、その結果、進路選択のきっかけになったり小論文試験対策として効果がみられた。</p> |
| <p style="text-align: center;">情報</p> | <p>1)情報社会への理解と情報モラルの育成</p> <p>2)主体的な学びと情報活用能力の育成</p> | <p>1)講義や学習ノート演習を通して、知識や理解が定着し、情報を扱う際に必要な知識やルール、心構えが身についたか。</p> <p>2)文書作成、表計算、プレゼンテーション等のコンピュータ実習を通し、情報を主体的に活用する実践力が身についたか。</p> | <p>A</p> <p>A</p> | <p>1)情報社会を支える情報技術の役割や影響、コンピュータの仕組み、情報モラル等にふれ、生活において情報を効果的に活用するための考え方や知識を習得できた。</p> <p>2)授業に、集中し意欲的に学習する生徒が多く、実習の中で様々なコンピュータスキルを身につけることができた。また、PowerPoint の授業では、互いに発表し合い、それぞれの学習内成果を共有することができた。</p> |